第１回総合計画策定検討委員会における主な意見

【総　論】

・経済的な豊かさだけを追い求めるのではなく、個々人や住んでいる地域全体の幸福度を追求し、かなえていく努力をしていくことが大事

・学生のまち京都として、留学生も含めた学生間の交流・異文化交流を活発化させ、学生のコミュニティを大切にする学生共生のまちづくりが必要

・進取の精神、世界に繋がる京都の強みを生かし、様々な技術革新により、人々が望む社会の姿に社会システムが追いついてくることを願っている。

・京都は、千年の歴史と伝統、大学をはじめとした研究機関の集積を生かした、知的自由と多様性を誇るダイバーシティな人々の居場所となることを想像している。

・京都は、日本人にとって憧れ続ける場所であってほしい。

・人生 100 年時代において、どの世代でもやりがいを持って仕事に取り組める社会の構築が求められており、その結果、生産年齢人口が増加に転じれば日本の未来はある。

・持続可能な農業を構築し生命産業として維持していくことが、脱炭素社会構築と食糧安全保障の両立につながる。

・コロナ禍で働き方が劇的に変わった。どこに住んでも仕事ができることに気付いた人々は、どこに住むのかという価値観を重視するようになり、「京都に住む意味」が問われてくる。

・この間の大きな社会変化に共通するテーマがデジタル化の進展であり、20 年後にはさらにデジタル化が進むと考えている。京都の強みは、文化と長寿企業と大学の集積にあり、これらの強みをデジタル技術でさらに伸ばしていくことが大事

・2040 年は人口減少と高齢化が一段と進展し、介護が今以上に大きな問題となる。現役世代の収入を安定させ、人口減少に歯止めをかけること、さらに、人口減少社会においても、助け合い・社会貢献ができる力を人々が維持できるようにすることが大切

・京都の強みは伝統と文化、そして思い切って大胆に改革する精神。京都の価値・強みを再認識する必要がある。

・コロナ禍の中で、働き方も含めて多様な生活の選択肢が増えた結果、多様性のある生活を支える多様な地域づくりを考える必要がある。多様な地域づくりとは、地域の固有の文化、資源、人材を生かした地域づくりであると考えている。

・京都が 20 年後も魅力的であるためには、人口減少に何とか歯止めを掛けるのと同時に、内向きにならずにグローバル化を進めることにある。

・多様性が京都の魅力であるからには、人権のことを考える際にも国際基準を大切にすべき。「誰一人取り残さない」という共通原則は、行政のあらゆる分野に共通する原則である。

・社会変化が加速する中、対策も加速させる必要があり、そのためには、多くの人の共感を得る施策展開が必要

・2040 年の姿を想像し、その上で、20 年後に向かって、10 年後、5 年後にどうあるべきかを考えていく必要がある。

・限られた予算の中で様々な施策を行っていく必要があり、対策をある程度重点化して行っていく必要がある。

資料４

【各分野についてのご意見】

＜「安心」の視点＞

・危機に直面したときに強さを発揮するのは、課題に関わる専門人材が各地域に確保されていて、そういった人材同士のシームレスなネットワーク構築が構築されていることが重要

・危機は二度と同じ形では起こらないことを理解して、復習型でなく、新しい危機管理を行っていくことが必要

・人口減少・少子化問題ということが最も大きい社会課題であり、コロナ禍で課題解決に向けた対策が停滞しているということはあっても、基本的な課題認識は４年前と何ら変わっていない。

・社会保障の充実は、格差対策の観点からも重要であり、介護・保育事業を新たな社会的インフラ産業に位置付けて強化していくことが重要

＜「温もり」の視点＞

・人口減少という基本的な社会課題は全く変わっておらず、むしろコロナ禍で悪化している。若年層の負担増大をくい止めるためにも、少子化対策が最も重要

・少子化対策にはいろいろな要素があるが、女性が活躍しやすい環境づくりが重要

・若者に限らず、自分の働き方や職業観、生き方の価値観を考える体験が不足しており、多様な人と交流し、自らの言葉で自らのことを話せる力を養うことが重要

・コロナ禍によって、子どもの体力低下や 20 年後の健康状態に不安を覚える。地産地消を進めて、そのサイクルに子どもたちが携われるような教育が必要

・オンラインのみを進めると、若者の人と繋がる力が弱くなる。しかし、これを無理矢理改めようとすると逆効果であり、子どもたちが「あたたかく包み込まれている」感覚を抱くことが大切。それにより、子どもたちは「将来人の役に立ちたい」と思うようになり、人との繋がりを大切にするようになる。

・子育てについての母親の悩みは海外でも共通の課題。男性の育児参加の促進と母親がキャリア形成を断念せずに安心して子育てできる環境づくりが重要

＜「ゆめ実現」の視点＞

・廃校跡地等いろいろな場所を活用した学校部活の地域移行や高齢者の運動促進など、スポーツを通した地域コミュニティづくりが必要

・京都のプロスポーツを活用しながら、スポーツを見る幸せ感を若者中心に醸成していくことが必要

・ＤＸを進めていくうえで、これを担うデジタル人材やデータ人材をいかに確保・活用していくかが重要

・スタートアップももちろん重要であるが、中小企業の中で起こっている様々な事業変革や新技術開発など、「草の根イノベーション」を大事にしていくことが必要

・京都の南北アクセスは向上したが、リダンダンシー確保の観点からも、対面通行区間の４車線化が必要。